

# 時を越えて 現代に江戸を醸し出す

11月3日、出石お城まつりが開催され、但馬の小京都「出石」を大名行列が練り歩きます。1863年(文久3年)から、今に伝わる大名行列槍振りの伝統を絶やさないよう、日々活動が続けている方を紹介します。

川崎 昇治 さん(73歳)出石町町分在住



出石大名行列保存会会長の川崎さん。設備関係の会社を経営する傍ら、平成10年から現在まで、7年間会長を務めている

## 秋の風物詩 『出石お城まつり』

「大名行列の見どころは、奴の動き、行列の華やかさ、江戸時代の忠実な表現などたくさんありますが、特に注目してほしいのが、槍振りです」と話す川崎さんは、出石大名行列保存会で会長を務めています。

この保存会は、大名行列の伝統を後世に残していこうと、出石町在住の有志を中心とした組織で、自らも大名行列に出演し、伝統文化の継承に取り組まれています。

毎年11月3日に開催される出石お城まつりは、出石の城下町情緒の魅力を最も体感できるイベントです。

## 伝統にふれ、心を育む

出石和太鼓の会の演奏、ミヌ但馬ちりめんの披露、出石特産品の販売など、多くの催しが行われ会場を盛り上げます。

なかでも、メインイベントとして行われる大名行列は、江戸時代の参勤交代の模様を今に伝える伝統文化で、子供大名行列と大人大名行列があります。観覧者は出石の住民だけでなく、県外からも毎年多くの人が集まります。

大名行列はスポーツに例えると団体競技です。一人で演じるのではなく、全体の統一

## 交流を通じて活性化へ

した動きが大切で、特に槍振りは練習が必要で、このため、同保存会は、子供大名行列に参加する出石中学校1年生を対象に、夏と秋にそれぞれ5日間、槍振りの練習指導を行っています。

かけ声や足踏みなどの基本動作から始まり、生徒が2人1組になって、練習用の槍を相手に投げ渡ししながら、形や歩く練習をします。

川崎さんは、「出石の子どもたちは、この練習や大名行列などの伝統文化にふれることによって、ふるさとへの郷土愛を育んでいます。槍振りには華がありますが、演じるには体力がいり、真剣です」と話します。

一方、同保存会は、伝統文化の継承や練習指導するだけでなく、大名行列を通じて、但馬の小京都「出石」を売り出そうと活動しています。

姉妹提携都市の長野県上田市や他市町で開催する祭りやイベントに出演し、交流や情報交換についても積極的に取り組んで、出石の観光PRにもつな



大名行列槍振り風景。周囲には多くの観覧者が集まる

がてしています。

その結果、交流を持つことで得た、他市町との親交によって、今年は、新市誕生を記念して、鳥取県米子市から「淀江よいとまかせ行列」、但東から「赤野の太刀振り」が出演し、お城まつりに華を添えます。

川崎さんは、「出石大名行列を後世へ残していくうえで、課題となるのは、伝統文化を受け継いでくれる人員の確保です。大名行列に参加した子どもたちの中から、伝統文化を受け継いで全国に出石の魅力を発信してくれる人が出てきてくれるといいですね。市民の皆さんも、出石お城まつりにぜひ来てください」と話していました。

# 学校探検

3

## チャレンジ精神は、学校の誇り

### 府中小学校（日高）

案内者 藤田優生華さん



府中小学校は、但馬を代表する穀倉地帯「国府平野」の中央に位置し、国道312号沿いにある学校で、全校児童数は187人です。

この学校に通う、児童会長藤田優生華さん（6年生）に、府中小学校のいい所やおもしろい所を紹介してもらいました。

藤田さんは、バトンクラブに所属していて、運動会などの行事では、クラブのみんなと金管バンドに合わせてバトンを使った踊りを披露します。



「布の部屋」でお手玉作りを教わる藤田さん【写真右】

また、学校生活や行事で低学年の手伝いを積極的にするなど、将来は、保育園の先生になりたいという夢を持つ児童です。

私の学校を紹介します。学校で一番楽しい行事は、祖母の歴史に学ぶ会です。

この会は、毎年10月下旬に行われ、30年以上続く学校の伝統行事です。

地域の高齢者の方を講師として迎え、昔ながらの遊びや制作活動を通じて、世代間の交流の機会を持つ、ふれあいの場となっています。

布を使って製作をする「布の部屋」、わらを使う「わらの部屋」など、私たちは希望する部屋にそれぞれ分かれ、お手玉やお正月用のしめ縄、どんぐりでこまなどを作ります。上手にできない低学年を、講師の皆さんが手伝いながら仕上げていきます。

できあがったお手玉やこまで、昔ながらの遊びも教わり、地域の方も一緒に体を動かしながら、ふれあいを楽しみます。

学校で特徴のある所は、校舎の屋根が、白くとがっているところ。これは、世界の冒険家の植村直己さんが最後に登頂した山、「マッキンリー」をイメージした造りになっています。



校舎は、植村さんが最後に登頂した山「マッキンリー」がイメージされている

府中小学校は、植村さんの母校です。総合的な学習の時間では、植村さんの生き方を学んでいます。私たちはそれを学校生活に取り入れて、何事にもねばり強くやりぬき、自分の考えを表現できるように頑張っています。大先輩のチャレンジ精神は私たちの誇りであり、目標になっています。

# 笑顔の輪

## サッカークラブ

『ワーカーズ』代表 岩本 光生さん

サッカークラブ「ワーカーズ」はサッカー好きの経験者が集まり、積極的に大会に参加していきくと、平成6年に結成しました。現在クラブ員数は21人です。

代表者の岩本光生さんの指導のもと、17歳から34歳の社会人の方々が、毎週土曜日の夜に、五荘小学校のグラウンドで練習に励んでいます。

サッカーの見どころは、選手たちの駆け引きです。シュートを打ちやすい環境を作っていることや、相手チームの攻めからゴールを守るなど、チームワークが重要です。

このため、試合中は、広いグラウンドで常に選手が動き、良いポジションを取ろうと、相手チームとの駆け引きが行われています。

「サッカーをやって一番楽しいことは、試合に勝った時です。仕事の合間を縫って練習をしているので、辛い練習が報われます」と岩本さん。

このクラブの魅力は、メン

バーの仲のよさ。練習の後は、メンバーで食事に行き、クラブを通じて知り合いたい人な職業の人たちと、サッカー以外の話題についての情報交換を行います。

ワーカーズは、8年前に但馬地区で行われた、毎日クラブでの優勝経験があります。岩本さんは、今後の活動目標は、但馬サッカー協会に登録している14チームで競う、但馬リーグで優勝することです」と控えめながら力強く話していました。



ワーカーズメンバーの皆さん